

1. 取組を実施した背景(解決すべき地域の課題・目的)

- ・H30年度の国公私立高等学校中途退学者数334人、比率1.7%(全国平均1.4%)、全国ワースト6位
- ・R元年度の国公私立高等学校中途退学者数271人、比率1.5%(全国平均1.3%)。全国ワースト7位。中途退学の理由の上位3項目は、「学校生活・学業不適応」(38.0%)、「進路変更」(29.5%)、「学業不振」(7.4%)となっている。
- ・本県の若者サポートステーション事業の累積登録者数3,033人のうち、48.3%の1,465人が高校未卒である。(H19～R元年度累積)
- ・就労・修学など社会的自立を目指す上で、多くの困難を抱えている。

2. 実施内容

- ・対象:高等学校未卒の20歳から39歳及び市在住の15歳から19歳の高等学校未卒の社会的自立に困難を抱える若者(高卒認定未取得)
- ・若者サポートステーション(以下、サポステ)の利用者を対象に、学習相談員(サポステスタッフ)及び学習支援員による、個別及び少人数での学習相談、学習支援を実施。
- ・高卒認定試験合格後においても継続した支援をサポステ事業で実施。

4. 対象者の捕捉のための工夫(例:教育部局・福祉部局の情報連携、アウトリーチ等)

- ・教育委員会事務局・福祉部局等と情報連携を図る「学習相談・学習支援」検討会の開催により高卒認定試験実施状況や支援対象者の捕捉、関係機関との連携などについて意見交換を行っている。
- ・地区別連絡会(県内6箇所)の開催や、市町村教育委員会への聞き取り調査により、サポステへの誘導を図っている。
- ・関係機関を訪問しサポステ利用への誘導を行っている。

6. 実施により得られた成果・効果

- ・前年度からの在籍者数66名、R2年度新規登録者数80名(1月末現在)
- ・学習相談延べ1314件、実人数134名、学習支援延べ399件、実人数35名
- ・第1回高卒認定試験受験者数13名(県全体65名)、合格者数2名
- ・第2回高卒認定試験受験者数20名(県全体94名)、合格者数7名
- ・就労決定22名(正規2、非正規20)、修学17名(進学7、復学1、高認9)
- ・リファー(他機関への誘導)4名、その他支援終了14名

3. コロナ禍における課題・課題に対する対応方法(ICTや遠隔授業の活用等)

- ・3密を避ける工夫が必要であり、相談や学習のためにビニールついたでの設置や、ホワイトボードの活用、複数人の指導においては個人間の距離がとれる場所の設定などを行った。
- ・学習支援日程の伝達のため、LINEを活用して連絡を交わすことがある。

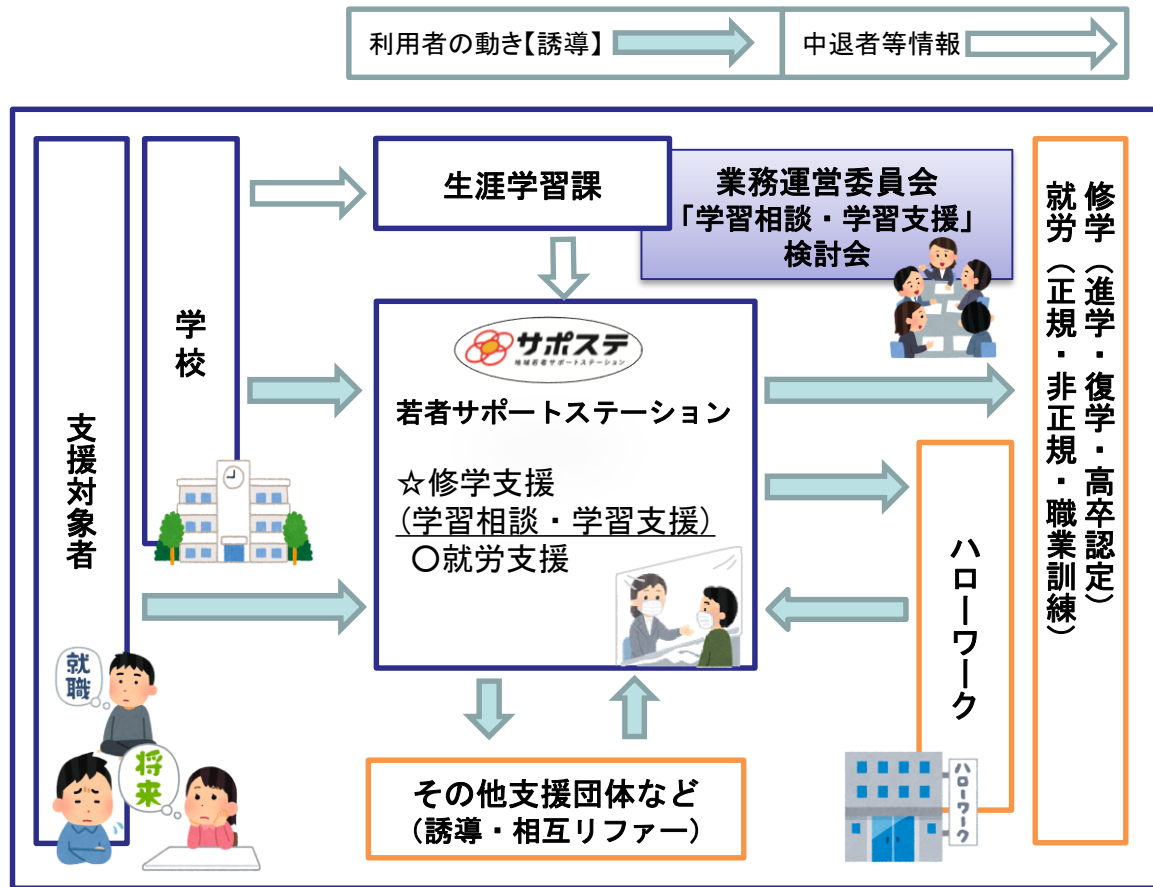
5. 対象者への広報・周知の方法(利用者を集めた方法)

- ・高等学校等との連携による支援対象者の誘導
「若者はばたけネット」により、中学卒業時及び高校中退時の進路未定者の情報を「同意書」「個人情報票」にて収集し、サポステからアプローチを実施し支援につなげる。
- ・学校を会場とした個別相談、セミナー実施等による周知・誘導
- ・サポステ利用者から高校未卒の支援対象者を捕捉
- ・サポステによるこれまでの出張相談会を、各市町村にまで展開

7. 課題・今後の展開

- ・より多くの支援対象者の捕捉及び学習相談・学習支援への誘導
- ・高卒認定受験者数及び合格率の向上
高卒認定取得の有用性の周知、学習支援への参加頻度の向上
(参加者の状況に応じた働きかけと学習習慣の獲得支援)
- ・タブレットやPC、モニタの活用など活用教材にあわせた支援が必要。

8. 実施体制



支援内容

- ・県内5カ所(2サテライト含む)にある若者サポートステーションにて、利用者を対象に、学習相談及び学習支援を実施。
- ・利用者の希望・特性に応じて、少人数制または個別での支援を実施。週1・2回の定期的な開催と個別対応による日時を指定しての開催。
- ・学習内容は小中学校レベルから高卒認定対応レベルとなる。ケースによっては資格取得などに向けた支援も行う。



【学習支援【こうち若者サポートステーション】】



【学習支援【なんこく若者サポートステーション】】



【学習支援【はた若者サポートステーション】】

9. 対象者の捕捉や利用者の確保について(4、5の補足)

- ・学校連携事業などの機会を通じ対象者を登録に導いている。学校と丁寧な連携を心がけ、休学中や不登校傾向、退学予定にある生徒について教員からの相談を受け、在学中からアプローチを開始し、切れ目ない支援となるよう配慮している。
- ・ハローワークとの連携では、ハローワークへの相談者のうち、中卒・高校中退・高認未取得の場合、サポステの学習支援などをハローワーク担当者から強く勧めたことで登録に至ったケースがある。
- ・通信制高校や定時制高校の担任や進路指導などの教員と適宜情報共有を行い、生徒本人への支援と学習支援を合わせて行った。
- ・今年度は高校に加え、中学校教員とのやり取りも増えた。地域に根差した支援機関になることで、利用しやすい状況を作るように心がけた。

10. 学習相談・支援における工夫(ICTの活用など)

- ・ネット動画の活用。YouTubeの授業動画を利用した。
- ・落ち着いて学習のできる空間を作り出すため、温かな言葉がけをし、不安などを聞き取った。
- ・来所、学習意欲のモチベーション維持のため、達成感につながるよう習熟度に応じた指導を行った。
 - 個々の学力に応じて自宅学習ができる課題を提供し、家庭での学習時間を確保。
 - 教材に海外の書籍(絵本や児童書など)を使用し、英語の歌を和訳するなど行った。
 - 英検の資格を目標にするなど、目標設定をわかりやすいものにした。

11. 他部局との連携について

- ・年1回、教育委員会事務局・福祉部局等と情報連携を図る「学習相談・学習支援」検討会を開催
- ・構成メンバー(当課除く)
 - 県教委高等学校課 高校中途退学者情報(定時制)、高認試験会場設定等
 - 県教委人権教育・児童生徒課 高校中途退学者情報(全日制)
 - 高知県地域福祉政策課 ひきこもりの人等に対する支援のあり方に関する検討委員会
生活困窮世帯の子どもに対する学習・生活支援事業等
非行防止対策ネットワーク会議等
 - 高知県児童家庭課 事業受託団体
 - 各サポステ
- ・検討会の内容
事業内容や実施状況説明、高卒認定試験実施状況について、支援対象者の捕捉、高校中退から就労に至るまでの間に必要な支援、支援における関係機関との連携などについて意見交換を行い、協力関係の構築を図っている。



12. 高認試験について

- ・受験者実人数23名。うち、合格者は9名。
- ・過年度、サポステ支援で受験経験がある者は1名。
- ・一部のみの科目合格者数10名。
- ・全科目合格後も、必要に応じて引き続き就労等支援を実施している。

13. 対象者の就労先一覧

- ・卸売/小売業
(10名:正規1名、非正規9名)
魚を捌く、販売、商品の封入作業、レジ、接客、品出し、作業員、フロア
- ・サービス業/娯楽業
(2名:正規1名、非正規1名)
皿洗い、美容師
- ・宿泊/飲食 (4名:非正規4名)
調理、接客、製造販売全般
- ・農業/林業 (3名:非正規3名)
生産工程、生姜の植え付け
- ・公的機関 (1名:非正規1名)
作業員
- ・鉱業/採石/採取業 (1名:非正規1名)
作業員
- ・運送業 (1名:非正規1名)
荷物等集荷